

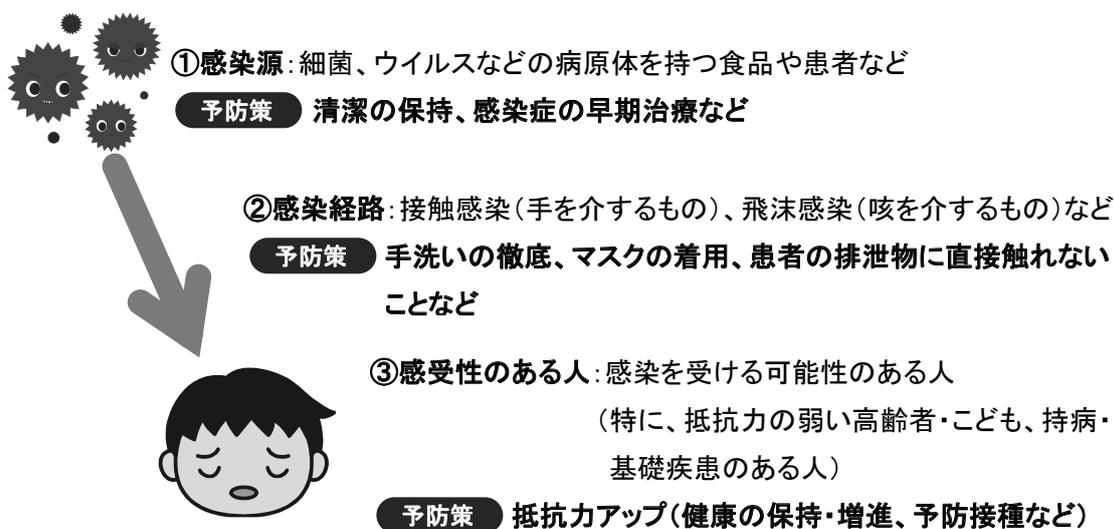
感染症対策

第6章

感染症の予防

感染症は、細菌やウイルス、寄生虫などの病原体が身体に入り、引き起こされる病気をいいます。

感染の成立には、①感染源②感染経路③感受性のある人の3要素が必要となるため、いずれかの段階で予防策をとることが大切です。



(1) 市川市の現状

1 予防接種の接種率

(1) 乳幼児

予防接種の種類	接種率(%)
結核(BCG)	101.2
インフルエンザb菌(ヒブ) *	99.7
肺炎球菌 *	99.3
ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ(4種混合)	99.5
麻疹風しん 1期	94.0
麻疹風しん 2期	92.3
水痘 *	102.8
日本脳炎 1期 *	81.6
おたふくかぜ	103.0

(2) 学童

予防接種の種類	接種率(%)
日本脳炎 2期 *	57.5
ジフテリア・破傷風(二種混合) *	79.5

(3) 高齢者

予防接種の種類	接種率(%)
インフルエンザ	53.4
肺炎球菌	31.3

出典：市川市データ（平成26年度実績）

※「*」を付した予防接種の接種率は、予算上の予定数のうちの実施者数の率
その他の接種率は、厚生労働省の指定した数値により算定

(2) 市川市の課題

- 感染症について理解し、感染症予防・予防接種の意味を知り、正しく予防接種を受けていく必要があります。
- 乳幼児については、予防接種の種類が増えたため、対象年齢、接種方法等、全体を理解することが困難な状況になっています。

(3) 健康づくりの目標

- 感染症に対する知識の普及
- 乳幼児の予防接種率の向上

(4) 行動目標（市民）

- 感染症について正しく理解しましょう。
- 手洗いを習慣づけましょう。
帰宅時、調理や食事の前、トイレに入った後、感染の可能性のあるもの（患者の排泄物など）に触れた後など
- 咳エチケットを守りましょう。
 - ・咳、くしゃみが出るときは、マスクを着用しましょう。
 - ・マスクが無いときは、ハンカチやティッシュなどで口や鼻を覆うようにしましょう。
 - ・使用後のティッシュは、すぐにゴミ箱へ捨てましょう。
 - ・咳、くしゃみをおさえた手、鼻をかんだ手は直ちに洗いましょう。
- 日頃から食生活や休養など生活習慣に気を配り、免疫力を高めましょう。
- 予防接種を必要な時期に適切に受けるようにしましょう。

(5) 具体的な施策（市）

- 正しく予防接種を受けるため、予防接種の利便性を高めます。
- 感染症についての正しい知識と、予防法を周知します。
- 保健所など関係機関と連携し新興感染症^{※1}、再興感染症^{※2}対策を進めます。

※1 新興感染症：「MERS」など最近新たに認知され、局地的あるいは国際的に公衆衛生上問題となる感染症

※2 再興感染症：「デング熱」などいったん制圧されたかみえた感染症が再流行し、患者数が増加したもの

食中毒を予防しましょう

感染症のうち、食べ物が原因のものは「食中毒」として扱われます。

食中毒は、飲食店だけではなく、家庭の食事でも発生しています。

家庭での発生では、軽症だったり、発症する人が1人や2人のことが多いことから風邪や寝冷えなどと思われがちで、食中毒とは気づかれず、重症化することもあります。

食中毒を防ぐためには、

① 細菌などを食べ物に「つけない」

(例) 調理の前や生ものを扱う前後などに石けんで手洗いをする

焼肉などの場合には、生の肉をつかむ箸と焼けた肉をつかむ箸は別のものにする

密封容器に入れたり、ラップをかけて食品を保管する

② 食べ物に付着した細菌を「増やさない」

(例) 低温で保存し、早めに食べる

③ 食べ物や調理器具に付着した細菌やウイルスを「やっつける」

(例) 加熱処理する、調理器具を熱湯や台所用殺菌剤で殺菌するという3つのことが原則です。



(参考) 食中毒発生状況 (平成 28 年 1 月 4 日現在)

	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
市川市	2	14	0	0	1	20
千葉県	30	192	36	730	47	745
全 国	1,087	27,204	946	22,396	1,097	19,759

出典：厚生労働省 Web ページ「食中毒事件一覧速報」「過去の食中毒発生状況」及び千葉県 Web ページ「食中毒関連情報」のデータを加工

性感染症の予防

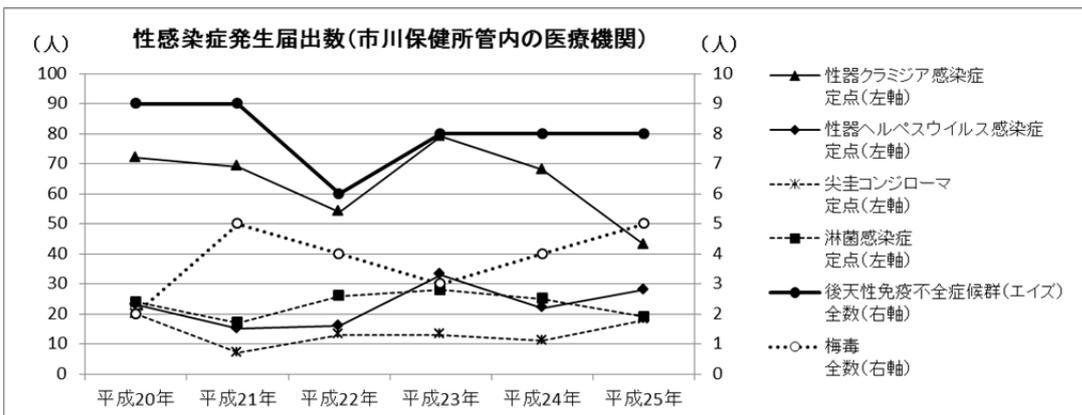
感染症のうち、性器クラミジア感染症、梅毒、淋菌感染症（淋病）、後天性免疫不全症候群（エイズ）など性行為により感染するものを性感染症（STD：Sexually Transmitted Diseases または STI：Sexually Transmitted Infection）といいます。

主な感染経路は「性行為」と、注射器の回し打ちや刺青（タトゥ）、輸血などによる「血液感染」、出産や授乳などによる「母子感染」です。

コンドームを正しく使うことが、多くの性感染症の予防に有効です。一方、経口避妊薬（ピル）は感染予防には有効ではありません。

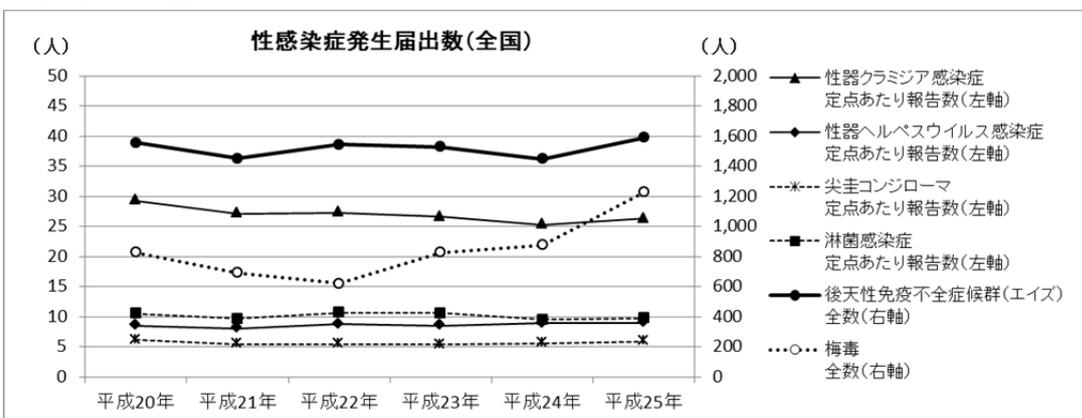
（1）市川市の現状

1 性感染症の発生届出数（市川保健所管内）



出典：千葉県市川健康福祉センター（市川保健所）事業年報のデータを加工

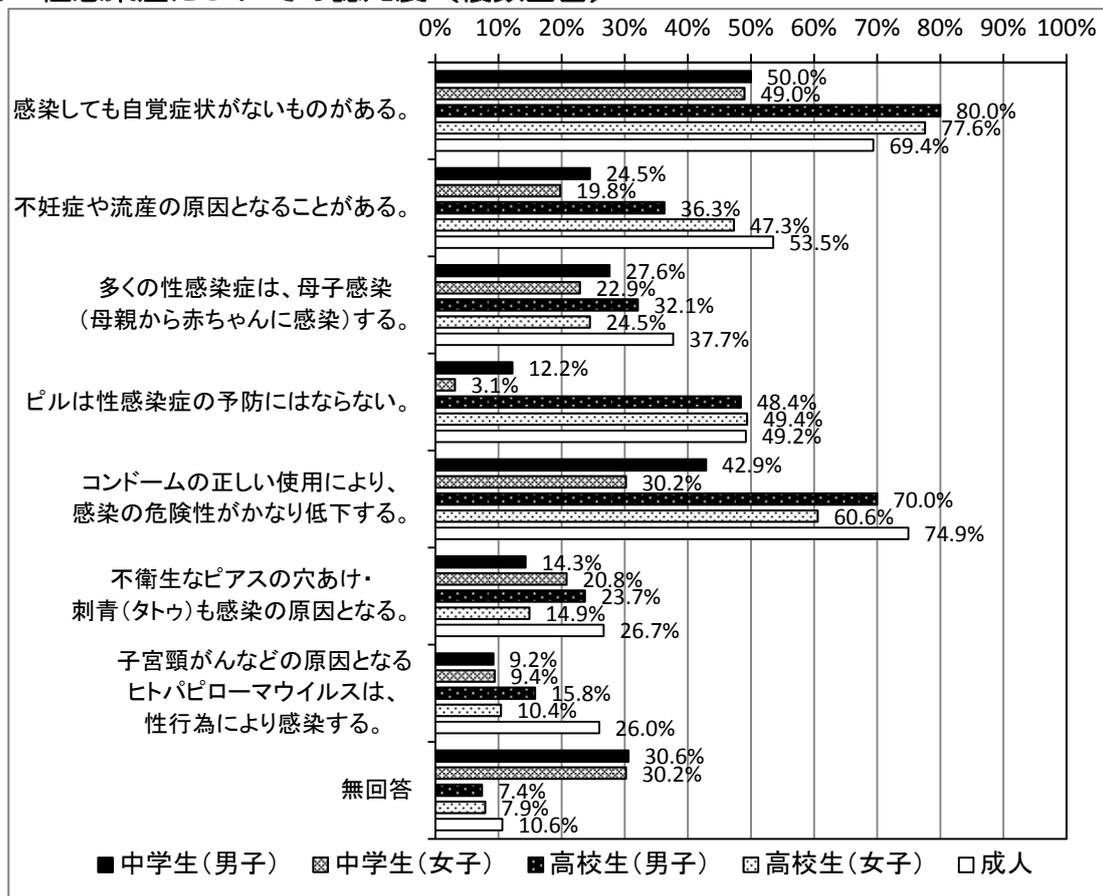
（参考）全国の状況



出典：厚生労働省 Web ページ「性感染症報告数」及び厚生労働省エイズ動向委員会「平成 25（2013）年エイズ発生動向年報」のデータを加工

- 市川保健所管内（市川市及び浦安市）では、各疾病とも、発生届出数は概ね横ばい傾向にあります。
- 全国的には、梅毒の発生届出数が上昇傾向にあります。

2 性感染症についての認知度（複数回答）



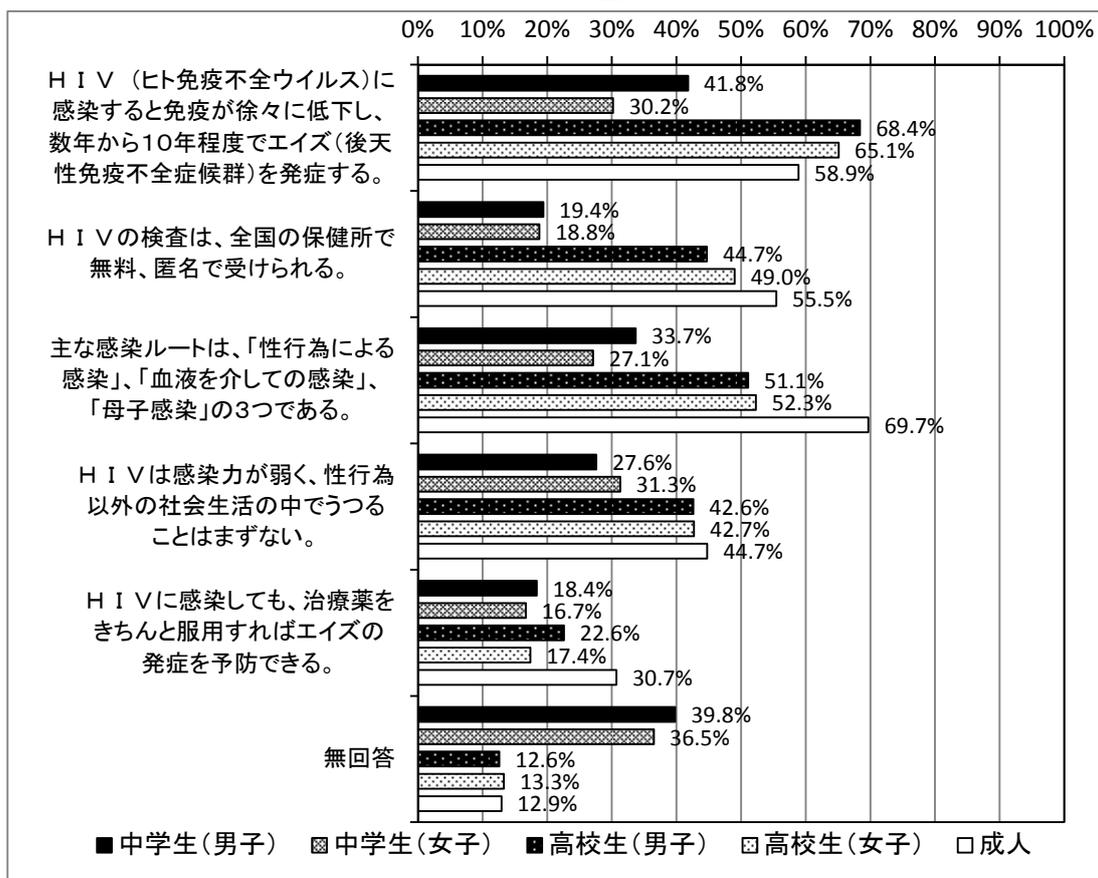
出典：市川市基礎調査（2015年）

- 「不衛生なピアスの穴あけ・刺青も感染の原因となること」、「ヒトパピローマウイルスが性行為により感染すること」の認知度は、中学生、高校生、成人をとおして30%未満となっています。

「性感染症についての認知度」のまとめ（高校生及び成人）

概ね 70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・感染しても自覚症状がないものがある ・コンドームの正しい使用により、感染の危険性がかなり低下する
概ね 50%～70%	<ul style="list-style-type: none"> ・ピルは性感染症の予防にはならない
概ね 30%～50%	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊症や流産の原因となることがある ・多くの性感染症は、母子感染（母親から赤ちゃんに感染）する
概ね 30%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・不衛生なピアスの穴あけ・刺青（タトゥ）も感染の原因となる ・子宮頸がんなどの原因となるヒトパピローマウイルスは、性行為により感染する

3 エイズ/HIV についての認知度（複数回答）



出典：市川市基礎調査（2015年）

- 「HIV に感染しても治療薬の服用によりエイズ発症を予防できる」ことの認知度が、中学生、高校生、成人をとおして概ね30%未満となっています。
- 「HIV は性行為以外の社会生活の中でうつることはまずない」ことの認知度が、中学生、高校生、成人をとおして約40%となっています。

「エイズ/HIV についての認知度」のまとめ（高校生及び成人）

概ね70%以上	(なし)
概ね50%～70%	<ul style="list-style-type: none"> ・HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染すると免疫が徐々に低下し、数年から10年程度でエイズ（後天性免疫不全症候群）を発症する ・主な感染ルートは、「性行為による感染」、「血液を介しての感染」、「母子感染」の3つである
概ね30%～50%	<ul style="list-style-type: none"> ・HIVの検査は、全国の保健所で無料、匿名で受けられる ・HIVは感染力が弱く、性行為以外の社会生活の中でうつることはまずない
概ね30%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・HIVに感染しても、治療薬をきちんと服用すればエイズの発症を予防できる

(2) 市川市の課題

- 性感染症の発生届出件数の横ばい傾向が続いています。
- 性感染症は感染経路が限られているため、予防についての知識のより一層の普及を進める必要があります。
- 成人の約70%がHIVは「血液感染」することを認知しています。
一方、「不衛生なピアスの穴あけ・刺青（タトゥ）」はHIVをはじめとする性感染症の血液感染経路の1つですが、このことを認知している人は成人の約27%に留まっており、大きな差があります。
- HIVは性行為以外の社会生活で感染することはまずないこと、感染しても治療により発症を予防できることの認知度の向上により、HIV感染者への差別・偏見の解消を目指す必要があります。

(3) 健康づくりの目標

- コンドームの正しい使用により、感染の危険性がかなり低下することの認知度の向上
- ピルは性感染症の予防にならないことの認知度の向上
- 不衛生なピアスの穴あけ・刺青（タトゥ）でも感染することの認知度の向上
- HIVは性行為以外の社会生活でうつることはまずないことの認知度の向上
- HIVに感染しても治療によりエイズ発症を予防できることの認知度の向上

(4) 行動目標（市民）

- 性感染症の原因と予防方法について正しく理解しましょう。
- 感染の疑いがあるときは必ず検査を受け、パートナーや赤ちゃんにうつさないようにしましょう。

(5) 具体的な施策（市）

- エイズ等性感染症について、地域ぐるみによる正しい知識の教育・啓発・普及活動を進めます。
- 学校における性教育の一環として、エイズ等性感染症とその予防について学ぶ活動を進めます。

エイズ・性感染症について詳しく知りたい人は

市川市 Web ページ「市川市のエイズ・性感染症対策」
<http://www.city.ichikawa.lg.jp/pub01/1111000098.html>

